



風かおる
人が輝き
躍動するまち

とままえ

2

No.678



まちびと 百景

成人式

1月7日(日)町公民館で平成30年成人式が行われた。

全国的なニュースでは式典中に騒いだり、携帯電話の通話や友人との雑談などで新成人のマナーについてとりあげられているが、本町の新成人は、登壇者への礼もきちんと行い、雑談もなく、例年すばらしい式典となっている。

これも新成人が今まで学んできたことと保護者が家庭教育をしっかりと行ってきた成果と感じた。

- 平成30年成人式… 2
- 海の子作品展入賞ほか… 3
- とままえ町民劇ほか… 4
- 苫前町消防団出初式ほか… 5
- 健康ばんざい… 6
- 地域包括ケアだより… 7
- 後期高齢者医療ガイド… 8
- 国民年金… 9
- 学びの広場…10
- 住まいる情報…11~13
- 議会だよりNo. 110…14~21
- ちびっこギャラリー…22



まちの人口

人口/3,191人(男/1,516人:女/1,675人)
世帯数/1,551世帯 (1月31日現在)

責任と自覚を！ —新成人おめでとう— 平成30年 苫前町成人式



1月7日(日)午後1時から公民館において平成30年成人式が挙行された。

今年の対象は男女あわせて38名、うち男性13名、女性14名の計27名が新たに大人の仲間入りを果たした。

色とりどりの振り袖やスーツ、羽織・袴に身を包んだ新成人が受付を済ますと、久しぶりに再会した友人と笑顔で談笑する姿や友人同士で写真撮影する姿が見られた。式辞で花井秀昭教育委員長が「世界では多くのテロやミサイル問題など紛争が絶えない。ロボットやAIの技術が進歩し、将来的には人工ロボットが発達して人間の雇用に影響を与える。しかし、ロボットといえども人間の五感に優るものはない。いかなる時も五感で感じて判断する必要がある。自然豊かなこの苫前町で育った皆さんは、決してコンピュータやロボットに使われるのではなく、コンピュータやロボットを上手く使いこなす人になること。故郷を大切にすることは、地元で頑張っている友や家族を応援することにもなる」と新成人にエールを送った。

新成人を代表し、川村旬輝さんと白府稜加さんが「社会の一員としてのきまりを守り、互いに助け合うことを心に銘記し、責任ある行動のもと努力し続けます」と力

強く宣誓を行った。

森利男町長は「成人式は、大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を励ます日と なっている。技術革新が進む時代、どんな時代であつても次代を担う新たな感覚や情熱を発揮し、まちづくりの主体となつていただきたい。謙虚に学び、自らを研鑽して着実に前進されることを願っている」と、阿部俊一議長は「満20歳となり権利行使ができるようになった。人生にはいくつもの節目がある。自分の人生は自分で切り開いていく信念をもってまい進してほしい。皆さんの力が21世紀の若人として、日本の原動力になることを念願する」と祝辞を述べた。

成人意見発表では地元の土地改良区で勤務をしている福田怜也さんが「小中高校の12年間は学校生活の中でたくさん友人・先生と出会った。今の私をつくりあげたのは自然豊かな苫前町といつも正しい方へ導いてくれた両親と先生方、多くの友人たち。いずれは信頼される人間になり、苫前町に貢献できるようにしたい」と述べた。

また、町社会福祉協議会に勤務する江島朋香さんは「小学生、中学生、高校生の12年間はたくさん のことを学び成長することができた。そして、ともに笑いあい、支えあつた友人たちとの日々は今で

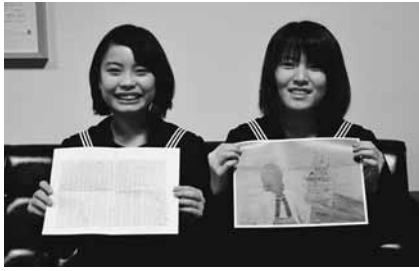
も大切な思い出。社会人としてはまだまだですが、これまでお世話になった苫前町の住民の方々に、少しでも貢献出来るよう精一杯努力していきたい」とこれからの決意を述べた。

この他、岸仁美さんは「成人への実感が少しずつ湧いてきた。現在教師を目指して勉強している。子どもに愛される教師を目指したい」と述べた。鴨田祥宏さんは「いろんな人に支えられた。親には感謝している。まずは健康第一に仕事を頑張る」と成人への意気込みを語った。

この成人式に当時新成人を受け持った学校の先生も参加、教え子を目の前にお祝いのメッセージを送ると、笑顔を浮かべたり、涙ぐむ新成人も見られ、式典終了後も先生や友人を交え、談笑する姿が見られた。



海の子作品展入賞 ～ 苫前中学校・古丹別中学校～

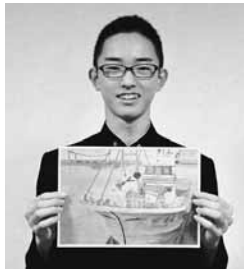


大矢根さん(左)・千葉さん(右)

北海道信用漁業協同組合連合会が主催する平成29年度「海の子作品展」の図画の絵に出品した苫前中学校(森正彦校長)1年の千葉彩心さんが優秀賞、古丹別中学校(大井学校長)2年の平井憲吾くんが佳作、作文の部に出品した苫中1年の大矢根楓さんが作文の部で佳作、苫前小学校(小澤真弓校長)6年久野光輝くんが知事賞、同校5年の若狭焔斗くんが佳作に選ばれた。



久野くん(左)・若狭くん(右)



平井くん

美術を指導している梅原賢伸教諭は「技術的にはまだまだ勉強するところがあるが、丁寧に描きあげていてうまく表現できていた」と話した。

千葉さんは「最初は難しいと思ったが描いていくうちにいい作品ができた」と話した。

また、作文の部で最高位の知事賞を受賞した久野くんは、「家が漁師なので海の作文を書きたいと思った。自分が家族の力になりたいと思った」と話した。

なお、優秀賞を受賞した千葉さんの作品は、第40回全国海の子絵画展に出展される。

幸寿園に清拭タオルを寄贈 ～ 苫前町農協女性部～

この日は、佐武部長をはじめ副部長の大矢根裕子さん、小澤さえ子さん、田井陽子さんの4名が訪れ、石川裕一施設長に手渡した。

石川裕一施設長は「とても助かります。大事に使わせていただきます」とお礼を述べていた。

町農協女性部(佐武敏子部長)は、12月13日(水)特別養護老人ホーム「苫前幸寿園」に清拭タオル50枚を贈った。

同女性部はボランティア活動として毎年同施設の窓ふきなどを行ってきたが、今回は同園より要望があり、タオルの寄贈を行った。



災害時における地図製品等の供給等に関する協定 ～ 苫前町と株式会社ゼンリン～



12月15日(金)役場会議室で、苫前町と株式会社ゼンリンにおいて「災害時における地図製品等の供給等に関する協定」を締結した。

災害発生時には最新の住宅地図などの提供や、防災訓練などで使う地図も無償で貸与され、留萌管内での協定締結は初めてのこと。

森町長は「災害時の地図情報というところで災害対策などに活用できる。特段の配慮にお礼を申したい」と話した。

一方、株式会社ゼンリンの中村英二北海道エリア統括部長は「東日本大震災以降より一層の地域貢献に取り組んでいる。少しでも苫前の安全・安心に繋がればと思います」と述べていた。

8チームが熱戦を展開 ～ 町民フットサルフェスティバル2017～

12月16日(土)スポーツセンターで町民フットサルフェスティバル2017が、8チーム約60名の参加で開催された。

試合前に注意事項を確認し、激しいタックル禁止やフェアプレーを徹底周知した。

試合ではドリブル、シュートの打ち合い、必死のボールの奪い合いなど一進一退の攻防が続いた。

決勝は、JF北るもいとBIGPEACHあだるとで争われ、3対1でJF北るもいが優勝を収めた。



人間ドラマを熱演 ～とままえ町民劇「結婚しようよ」公演～

とままえ町民劇実行委員会（佐藤映里香代表）による第10回目公演「結婚しようよ」が12月16日（土）町公民館で公演され、町内外より約410名が来場した。

演目は、町開拓の悲劇を基にした8作目の「拓（ひらく）」に次ぐオリジナル劇で、劇団「弦巻楽団」の主宰者で札幌を拠点に国内外で活躍している弦巻啓太さんが、苦前町をモチーフに脚本を書き、演出をした。

物語は、娘の結婚披露宴に出席したくないと調理室に立てこもる父親を結婚する2人や周囲が説得するものの、説得には応じず披露宴は始まる。最終的には娘のヒーローはもう自分ではなく結婚



相手なのだ」と納得し、2人の結婚を祝福する物語。弦巻さんは「これまでの練習を振り返ってみればあつという間、気づいたら家族のようだった。町民劇を続けることは大変だと思うが、たとえどんなに小さくなくても続けてほしい。機会があれば、また一緒にやりたい」とエールを込めて話した。

カーテンコールでは会場から大きな拍手が送られたほか、観客を見送る「送り出し」でロビーに並んだ出演者に花束を手渡したり、握手したりなどして感動を伝えていた。



古丹別保育所園児とのふれあい ～古丹別中学校3年生～

12月19日（火）古丹別中学校（大井学校長）3年生10名が古丹別保育所（川森のり子所長）を訪問、園児たちとふれあった。

毎年家庭科の授業として実施しているもので、生徒は3班に分かれ、シールや工作物等を事前に準備し当日は進行役を務めながら園児との交流をはかった。

進行役を務めた瀬川永夢くんは「園児たちが何をやりたいか、また自分たちがどうしたいかを伝えるのが難しかった。園児からは企画したものが楽しいと言ってくれたので、うれしかった」と話した。



ちょっと早めのクリスマスプレゼント ～苦前小学校 小澤校長先生～



12月21日（木）苦前小学校小澤真弓校長は、全校児童67名に松ぼっくりを使った手作りのクリスマスツリーを贈った。

以前景品などで作製していたクリスマスツリーを、児童にプレゼント出来ないかと試行錯誤しながら勤務終了後や土・日曜日の休みを利用して作製したという。

小澤校長は「松ぼっくりの大きさがまちまちなので選定が大変だった。思いつきで作りはじめたので、児童には押しつけがましいかと思ったが、みんな喜んでくれてよかった」と述べていた。

宿題終わらずぞ！ ～冬休み学びの寺子屋が始まる～

児童・生徒が休み中に苦手科目の克服や家庭学習の習慣化を目的とした「冬休み学びの寺子屋」が12月25日、27日の3日間、苦前地区はとままえ温泉ふわつと、古丹別地区は町公民館で開催され、両地区の小学生延べ188名が参加した。

池田文敏教育長は開催に先立ち「冬休みを有意義に過ごすために、まず自分で考えて企画して段取りを組んで進めることが大事」と挨拶した。

参加者たちは、学校の宿題プリントや市販の問題集など各自持ち寄った教材に取り組み、夏休み同様に学校教育支援員や小学校教員のサポートを受けながら、問題を解いていた。



決意も新たに初出動 ～ 苫前町消防団・苫前救難所出初式～



苫前町消防団（瀬川信昭団長）の出初式が1月5日（金）に北留萌消防組合苫前支署前で実施され、団員46名が参加して行われた。

雪が降る中、服装点検、閲団などが行われ、新年の決意が団員の表情に表れていた。

とままえ温泉ふわつとに会場を移動し行われた屋内式で森町長は「昨年は暴風もあつたが被害を最小限に抑えられた。今年は無火災・無災害を祈願し、防火意識を高めより万全の体制で取り組んでいただきたい」と挨拶した。



1月6日（土）に苫前救難所（川村信介所長）の出初式が北るもい漁協苫前支所で17名の団員が集まり開催され、救命索発射装置（もやい銃）の発射訓練、整列・点呼、団長への人員報告などが行われた。

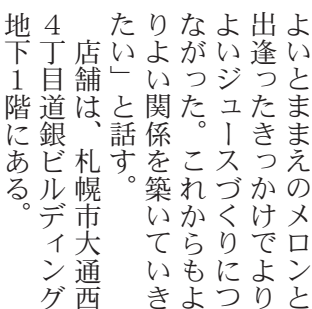
とままえ温泉ふわつとで行われた屋内式では、川村所長が「これまで4,808日間海難事故は発生していない。団員のライフジャケット着用の講習会なども効果があると考えている。これからも留萌海上保安部など関係機関の指導を賜りながら鍛錬を積んでいきたい」と挨拶した。

自分たちのまちは自分たちで ～ 森町長の仕事始めの挨拶～



1月9日（火）に役場大会議室で森町長による仕事始めの挨拶が行われた。森町長は「国では人づくり革命、人生100年時代と言つて、世の中の仕組みを大きく替えようとしている。高齢化時代への対応、北朝鮮問題に係る防衛問題など国では借金を増やしているなどその影響は地方に間違いなく出てくる。現在新年度の予算編成を進めているが、医療問題・人口対策を含めメリハリのある予算が必要になってくる。自分たちのまちは自分たちでつくる。民間の発想力も必要。皆の英知を集めて頑張りたい」と奮起を求めた。

苫前産品でジュースやスムージー ～ コトリ・ジュース・スタンド～



1月12日（金）「コトリ・ジュース・スタンド」の堀松克之社長（本社、留萌市の堀松産商株式会社）と妻で店舗運営管理部の堀松健美店長が、森町長、JA苫前町松原幸博代表理事組合長を表敬訪問した。

コトリ・ジュース・スタンドは、札幌市で苫前産のメロン・カボチャ・トウキビなどを使用してジュースやスムージー（凍らせた果物や野菜をミキサーしたもの）を販売している。

堀松社長は、「品質のよいとままえのメロンと出逢ったきっかけでよりよいジュースづくりにつながった。これからもよりよい関係を築いていきたい」と話す。

店舗は、札幌市大通西4丁目道銀ビルディング地下1階にある。



外国人実習生が表敬訪問



1月16日（火）株式会社山本漁業（山本一二美社長）で就労している外国人実習生のハディー・ラムダニさんとデディー・ブルハンさんが森町長を表敬訪問した。

2人はインドネシアのチルボン出身で、千葉県の語学学校から派遣会社の仲介で来町、実習生として本町で3年間就労する。

ハディーさんは「苫前は静かな町です。仕事はあまり難しくなく、両親に仕送りをして生活を楽にさせてあげたい」、デディーさんは「人が少なくてびつくりした。仕事は楽しい」と話した。

森町長からは「今日は2人ともよく来ていただいた。言葉も文化も違うところでの生活は大変だが、体に気をつけ仕事を頑張ってもらいたい」と激励した。

健康ばんざい

「年1回、がん検診を受けましょう!」

今月の担当は 宮崎主任保健師 です

日本では2人に1人ががんにかかり、3人に1人が死亡するといわれています。

死亡数の多い部位は、男性では肺がんが一番多く、次に胃がん、大腸がん、女性では大腸がんが一番多く、次に肺がん、膵臓がんとなっています。

北海道内での死亡原因の第一位ががんです。がんで亡くなる方の割合は、北海道が全国で一位という状況です。

○がん検診はどんな検査?

がんは早期に発見し、適切な治療をすることで克服したり、普段の生活に戻る方がたくさんいます。

早期のがんは、目立った症状がない場合が多く、元気な方も年一回の確認として、定期的にがん検診を受けることが大切です。

苫前町では、苫前町国民健康保険及び後期高齢者医療に加入されている方は、無料で検診を受けられます。その他の医療保険に加入されている

検診内容		対象者
胃がん検診	胃部×線検査 バリウム(造影剤)と発泡剤(胃を膨らませる薬)を飲み、×線で胃の形や粘膜を撮影します	40歳以上 ただし、当町では30歳以上の方も受けられるようにしています。
肺がん検診	胸部×線検査 肺全体を×線で撮影します	40歳以上
大腸がん検診	便潜血検査 便の中の血液を調べ、大腸内の出血の有無を調べます	40歳以上

方も、各検診につき500円〜1000円程度の自己負担で受診可能です。

予約は先着順となりますので、希望の日時がある方は、予約を開始してから、早めの連絡をお願いいたします。予約の開始日は改めてチラシです。

お知らせしますので、回覧等をご確認ください。

○検診と病院、どちらで受ける?

検診は、基本的には医療機関で同じような検査を受けておらず、自覚症状等のない方を対象としています。

【検診のメリット】

- ・時間を決めて呼び出しているため、比較的短い待ち時間で検査を受けられる。
- ・3つの検診(胃・肺・大腸)をまとめて受けられる。特定健診と同時に受けられる(12月のみ)。

【検診のデメリット】

- ・結果を皆さんにお返しするまで、約1か月以上かかる。
- ・すでに自覚症状や調子の悪さを感じている方は、検診を待たずに受診する方が安心です。

検診車内には介助者がおらず、胃がん検診では必要な動作が自力でできなければならぬ。動作ができない場合は検査が中止となることもあるので、日常の動作に介助が必要な方や、検診車内での動作

作に心配のある方は病院受診をお勧めします。

○検診を受けた後はどうする?

検診の結果ががんでなくても、便に血液の反応があった場合や、胃や肺の写真で影やポリープの所見があった場合には、「病院で詳しく検査を受けてください」という結果になることがあります。がん検診だからといって、がんのみが見つかるということではありません。検診を受けた後に再検査のお勧めがあった方は、病院にかけ、治療等が必要なもののなか、そうではないのかを確認できると安心です。

胃・肺・大腸がん検診(30年度予定)

- ▶ 4月
20日(金)、22日(日)公民館
21日(土) 福祉センター
- ▶ 12月(ほかの健診と同日実施)
1日(土) 福祉センター
2日(日) 公民館

地域社会貢献事業

まちの施設を整備していただきました

苫前小学校全域の空撮写真と平面図の寄贈 ~ 山本建設工業株式会社 ~



12月18日(月)苫前小学校校長室で、苫前小学校改築に伴うグラウンド工事の施工業者である山本建設工業株式会社(山本道浩代表取締役)が、学校全域の空撮写真と寸法入りの平面図を地域社会貢献事業として寄贈した。

今後、植樹の計画もあり図面や空撮を通じて、配置場所を考慮するうえで活用することが期待できます。

ありがとうございました。

認知症の方への対応で困っていることはありませんか？

苫前町地域包括支援センターでは、認知症地域支援推進員を配置するなど、認知症の方やその家族への支援を行っています。また、平成30年度からは、認知症専門医などの協力を得て、認知症初期集中支援チームを設置し、認知症の初期段階での支援を包括的に行う仕組みを準備しています。

介護に関する相談受付

地域包括支援センターでは、「認知症が疑われるがどこに相談したらよいか、何科にかかればよいのか」、「どの様な手順や方法で、本人を病院に連れて行ったらよいか」「薬が指示どおり飲んでおらず、余っているようだが、どのような支援が必要か」「認知症と診断されたが、生活面の支援についてどの様な介護が必要か」などの相談にも応じています。

平成29年11月の広報でもお知らせしましたが、認知症の方への対応には、その原因となる病気や脳のどの場所がどの位傷害されているか、発症からどの位たっているかという状態だけでなく、どのような生活を送ってきたのか、好みや考え方など様々な面に配慮することが必要になってきます。

介護保険サービスを利用して担当の介護支援専門員（ケアマネジャー）や保健師がいる場合は、ぜひ相談してみましょう。

認知症サポーター養成講座

町民のみなさまを対象に認知症サポーター養成講座を開催しています。

「認知症サポーター」とは、認知症について正しい知識をもち、認知症の方や家族を温かく見守る応援者のことです。その役割は何か特別なことをするのではなく、例えば、困っている認知症の方がいたら声をかけたり、認知症の方を介護している家族などにねぎらいの言葉をかけるなどがあります。

平成29年12月31日現在、全国にサポーターは約983万人おり、当町のサポーターは341人、サポーター養成講座の講師役となるキャラバンメイトは8人います。

講座を受講すればどなたでも認知症サポーターになることができ、その証であるオレンジリングが与えられます。

町内会や学校、職場、サークル、お友達同士など、2・3人の少人数でも開催できますので、興味のある方はぜひお問合せください。

今年度町内で実施した養成講座の感想の一部を紹介します。

- 講座を受けたことで、今後認知症になっている人に会った場合に、講座で聞いたとおりやさしく接することができそう。
- アルツハイマー以外の「治る認知症がある」と聞いたので、物忘れなどが続く場合にはまず受診をした方がよいことが分かった。
- 講座を受けたことで対応の仕方は変わると思う。あらゆる場で手助けの意識を持つことが大事だと感じた。
- 自身の認知症予防のために、誰かと話すことや周りにつなげておくことが大事だと感じた。
- 自分が介護を受けた場合でも、「すみません」「ごめんなさい」よりも「ありがとう」と言える人になれるようにする。



◆事業のお知らせ◆

2月21日(水)の介護者家族の集いは、NPO法人北海道総合福祉研究センターの池田ひろみ事務局長を講師に迎え、苫前町公民館で午前9時30分より開催します。介護を助けてくれる道具（福祉用具）の紹介や使用方法、介助する際の注意点についてお話しいただく予定です。午前中2時間の予定です。興味のある方はぜひお越しください。

3月15日(木)の寿いきいき教室は、齊藤美香歯科衛生士を講師に迎え、苫前町公民館で午前9時30分より開催します。お口や歯の手入れの方法やあいうべ体操などについてお話しいただく予定です。お口の健康は、生活習慣病や認知症などにも関係があると言われておりますので、65歳以上の方のご参加をお待ちしております。